

産地交付金(全道枠)個票6、8 省力化・低コスト化助成に係る提出書類一覧

取組内容	提出書類
(1) 直播	作業日誌、播種作業中の写真
(2) 農作業の委託	
①融雪促進	作業日誌、作業委託が確認できる契約書、請求書、領収書など
②耕起・整地	作業日誌、作業委託が確認できる契約書、請求書、領収書など
③は種・育苗・移植	作業日誌、作業委託が確認できる契約書、請求書、領収書など
④生産管理(防除・追肥・除草)	作業日誌、作業委託が確認できる契約書、請求書、領収書など
⑤生産管理(用水管理・畔草刈り)	作業日誌、作業委託が確認できる契約書、請求書、領収書など
⑥収穫	作業日誌、作業委託が確認できる契約書、請求書、領収書など
⑦乾燥・調製	作業委託が確認できる契約書、請求書、領収書など
⑧出荷	作業委託が確認できる契約書、請求書、領収書など
(3) 農業機械・施設の共同利用 取組実施面積(対象作物及び主食用米の合計)が前年産の取組面積を維持・上回ること	共同機械利用日報
(4) 多収性の品種の取組(次の品種を対象とする) そらゆたか、えみまる、風の子もち、ぎたゆきもち	生産履歴(作付けた品種が確認できるもの)
(5) 栽培の合理化の取り組み(育苗・田植え)	
①疎植栽培(18cm以上)	作業日誌、苗の距離(18cm以上)がわかる写真
②乳苗・幼苗移植栽培(ハウス内加温かつ育苗期間10日以内)	作業日誌
③不耕起栽培(完全不耕起)	作業日誌
④プール育苗	作業日誌、育苗プールの写真
⑤無代かき移植	作業日誌、移植作業の写真
⑥自動換気装置による育苗ハウス内温度管理	作業日誌、自動換気装置の写真
(6) 施肥管理における取り組み	
①土壌分析、生育診断を踏まえた施肥	作業日誌、参考とした診断書(令和5年1月以降に受診しているもの)、施用した肥料・資材の購入証明
②堆肥散布	作業日誌、堆肥の購入時の納品書、領収書など
③育苗箱全量施肥(マイクロロング)	作業日誌、肥料の購入時の納品書、領収書など
④側条施肥	作業日誌、肥料の購入時の納品書、領収書など
⑤流し込み施肥	作業日誌、肥料の購入時の納品書、領収書など、装置の写真
⑥肥効調節型肥料の施用 (カタログ等により肥効調節型であることが証明され、北海道に適したものに限り)	生産履歴、肥料の購入時の納品書、領収書など 肥効調節型肥料であることが確認できるカタログ等の写し
(7) 農薬の低減化等の取り組み	
①抵抗性品種の導入 (対象品種は「きたくりん」とし、農薬使用量低減の取組を行うこと)	生産履歴(作付けた品種が確認できるもの)
②温湯種子消毒の実施	JAから温湯消毒済みの種子を購入した購入証明
③農薬の苗箱播種同時処理	作業日誌、処理作業時の写真
④農薬の田植え同時処理	作業日誌、イノベーターの写真
⑤病害虫予察情報による適期防除実施	作業日誌、防除剤の購入時の納品書、領収書など 参考とした予察情報
⑥乾土効果促進の取組(額縁明渠・溝切・心土破碎)	作業日誌、心土破碎等作業時の写真
⑦田畑輪換の取組	当年の米の生産履歴 過去5年以内に同一圃場で生産した畑作物の生産履歴
(8) 新技術の取り組み	
①GPSを利用した作業(耕起・整地・移植・施肥・防除・収穫)	作業日誌、受信機等装置の写真もしくは作業中の写真
②高密度播種短期育苗(蜜播中苗も含む)	作業日誌、マット育苗箱での育苗中の写真 取組に使用した資材の購入証明(マット等取組に必須の資材)
③ICT機器による水管理(自動給水装置、水田センサー)	作業日誌、装置の写真
④ドローンを利用した作業(播種、施肥、防除)	作業日誌、対象機械の購入記録または減価償却など所有が証明できるもの(委託の場合は作業委託が確認できる書類【委託内容の掲載された料金明細等】)
⑤リモートセンシング技術を利用した生育診断に基づく栽培管理	作業日誌、装置の写真
(9) 国際水準GAP(JGAP、ASIAGAP、GLOBALGAP)の認証取得	認証取得が確認できる書類

産地交付金(全道枠)個票8 高度省力化・低コスト化助成に係る提出書類一覧

取組内容	提出書類
<b>(1) 栽培の合理化の取り組み(育苗・田植え)</b>	
①疎植栽培(18cm以上)	作業日誌、苗の距離(18cm以上)がわかる写真
②乳苗・幼苗移植栽培(ハウス内加温かつ育苗期間10日以内)	作業日誌
③不耕起栽培(完全不耕起)	作業日誌
④プール育苗	作業日誌、育苗プールの写真
⑤無代かき移植	作業日誌、移植作業の写真
⑥自動換気装置による育苗ハウス内温度管理	作業日誌、自動換気装置の写真
⑦直播	作業日誌、播種作業中の写真
<b>(2) 施肥管理における取り組み</b>	
①土壌分析、生育診断を踏まえた施肥	作業日誌、参考とした診断書(令和5年1月以降に受診しているもの)、施用した肥料・資材の購入証明
②堆肥散布	作業日誌、堆肥の購入時の納品書、領収書など
③育苗箱全量施肥(マイクロロング)	作業日誌、肥料の購入時の納品書、領収書など
④流し込み施肥	作業日誌、肥料の購入時の納品書、領収書など、装置の写真
⑤肥効調節型肥料の施用 (カタログ等により肥効調節型であることが証明され、北海道に適したものに限る)	生産履歴、肥料の購入時の納品書、領収書など 肥効調節型肥料であることが確認できるカタログ等の写し
<b>(3) 農業の低減化等の取り組み</b>	
①抵抗性品種の導入 (対象品種は「きたくりん」とし、農業使用量低減の取組を行うこと)	生産履歴(作付けした品種が確認できるもの)
②農業の苗箱播種同時処理	作業日誌、処理作業時の写真
③農業の田植え同時処理	作業日誌、イノベーターの写真
④乾土効果促進の取組(額縁明渠・溝切・心土破碎)	作業日誌、心土破碎等作業時の写真
⑤田畑輪換の取組	当年の米の生産履歴 過去5年以内に同一圃場で生産した畑作物の生産履歴
<b>(4) 新技術の取り組み</b>	
①GPSを利用した作業(耕起・整地・移植・施肥・防除・収穫)	作業日誌、受信機等装置の写真もしくは作業中の写真
②高密度播種短期育苗(蜜播中苗も含む)	作業日誌、マット育苗箱での育苗中の写真 取組に使用した資材の購入証明(マット等取組に必須の資材)
③ICT機器による水管理(自動給水装置、水田センサー)	作業日誌、装置の写真
④ドローンを利用した作業(播種、施肥、防除)	作業日誌、対象機械の購入記録または減価償却など所有が証明できるもの(委託の場合は作業委託が確認できる書類【委託内容の掲載された料金明細等】)
⑤リモートセンシング技術を利用した生育診断に基づく栽培管理	作業日誌、装置の写真
<b>(5) 国際水準GAP(JGAP、ASIAGAP、GLOBALGAP)の認証取得</b>	認証取得が確認できる書類

コメ新市場開拓等促進事業に係る提出書類一覧

取組内容		提出書類
①直播栽培	育苗作業や移植作業の省略ができる	作業日誌、播種作業中の写真
②疎植栽培	株間を広げることで使用する育苗箱を減らすとともに資材費や省力化が見込まれる。	作業日誌、苗の距離(18cm以上)がわかる写真
③高密度播種育苗栽培	育苗箱の密度を高め播種量を増やすことで育苗箱数を減らすことができる。資材費・省力化につながる。	作業日誌、マット育苗箱での育苗中の写真
④プール育苗	育苗ハウスに簡易なプールをつくり、育苗箱を並べて湛水状態で育苗する。乾燥状態がなくなるのでハウスの管理が容易になる。	作業日誌、育苗プールの写真
⑤温湯種子消毒	温湯につけることで種もみに潜んでいる病害を消毒する。農薬の使用量を減らすことができる。	JAから温湯消毒済みの種子を購入した購入証明
⑥効率的な移植栽培	無代掻き移植栽培…耕運後に冠水し、代掻き作業を行わずに田植えをする。代掻き作業の時間短縮にはなるが、田の漏水や均平が取れないデメリットがある。乳苗移植栽培…葉齢が2葉未満の苗(乳苗。育苗日数は7～10日程度)を移植する	作業日誌 無代掻き:圃場の入水前後の写真2枚、乳苗:田植え直後の苗の写真
⑦作期分散	品種ごとに収穫時期をずらすことで病害虫発生時の対応に備えるもの。	2品種以上の作業日誌
⑧土壌診断等を踏まえた施肥・土づくり	土壌の養分状態を調査し、適正な施肥方法を確認する。総合・簡易などがある。総合評価のみが対象。(pH、窒素、リン、カリ)令和8年事業については土性診断を令和6年1月以降受診し、受診結果に基づいた施肥・土づくりを実施したものを対象とする。	作業日誌、参考とした診断書(令和6年1月以降に受診しているもの)、施用した肥料・資材の購入証明
⑨効率的な施肥	流し込み施肥…水田の入水口から液体の肥料を流し込む。圃場に入らずに施肥することができる。流し込み施肥用の装置するものが対象。マイクロロング施肥…親播き時に肥料を施肥しておく。田植え時の基肥や追肥の作業が省略化できる。(取組としてはマイクロロング施肥が主流)側条施肥…苗横3～4cmの位置にすじ状に施肥する方法。側条施肥には専用機が必要となるが、施肥窒素の利用率が向上し、施肥量の減肥が見込まれる。(側条444等は肥効調節型肥料に該当しないため対象とならない。対象となるのはDd778等のDdが付くもの)	作業日誌、施肥する肥料銘柄の購入証明(流し込み施肥:硫安・尿素、育苗箱:マイクロロング、側条施肥:Dd778等)、流し込み施肥の場合は装置の写真
⑩効率的な農薬処理	いずれも専用機が必要となる。播種時同時処理…播種時に育苗箱に農薬を散布田植え同時処理…田植え時に苗の葉部分に農薬を散布(イノベーター搭載のみ)	作業日誌、田植え同時処理の場合は田植同時除草散布機(イノベーター)の作業写真、播種時は作業中の機械の写真、農薬の購入証明
⑪化学肥料の使用量削減	堆肥利用等により、化学肥料の使用量を地域の慣行レベルと比べて30%以上削減すること。水稻の現行の地域慣行レベル(化学肥料の窒素成分量)は10(kg/10a)なので、3(kg/10a)の削減が必要。(地域の慣行レベルについては別添一覧を参照)	生産履歴
⑫化学農薬の使用量削減	総合的な防除体系の確立等により、化学農薬の使用量を地域の慣行レベルと比べて50%以上削減すること。水稻の現行の地域慣行レベル(化学合成農薬【節減対象農薬】の成分使用回数)はうるち(移植、直播)が22回、もち(移植)が21回なので、11回の削減が必要。(地域の慣行レベルについては別添一覧を参照)	作業日誌(化学農薬の使用量【回数】を記入)
⑬多収品種の導入	風の子もちが多収品種から外れたので、取組不可です。	生産履歴
⑭農業機械の共同利用	地域における農業機械の共同利用やシェアリングサービスをして個別経営の償却費の軽減を図る。個人経営で所有するよりも大型の機械を導入することができ、作業時間が短縮できる。対象機器はトラクター、田植機、コンバイン(アタッチメント含む)など、共同利用によって生産コストの低減が図られるもの(原則として取得価格50万円以上の農業機械)とする。なお、共同利用にかかる人数制限はなく、同一の機械を複数の品目で選択することも可能(2戸で共同利用しているトラクターを麦と大豆で使っているのであれば、麦と大豆の取組としてそれぞれ選択可能)。また、トラクターのアタッチメントも含むのでサブソイラーなどのトラクターに装着する農機具でも50万円以上であれば対象になる。無人ヘリの防除を「委託」は、防除作業の省力化を主たる目的として行われるものなので、結果として共同利用されていたとしても、農業者としての農業機械費の低減を狙って共同利用していると整理しづらいことから対象とならない。ただし、組合等の構成員として「自身が作業する」ものについては対象とする。	共同利用機械の利用日報(最低限記入する事項は「使った機械の名称」と「いつ」、「誰が」、「何の作業をしたか」。組織で使っている場合等は組織名も記載する)
⑮スマート農業機器の活用	ドローン、水管理システム等の活用(ロボット・AI・IoTなどの技術)ドローンによる生育診断や農薬散布を委託する場合も対象とする無人ヘリによる農薬散布は対象外	作業日誌、対象機械の購入記録または減価償却など所有が証明できるもの(委託の場合は作業委託が確認できる書類【委託内容の掲載された料金明細等】)
⑯ほ場由来の温室効果ガスの削減	メタン菌の活性化を防ぐために圃場を乾燥させる。(中干し)、腐熟を進行させることでメタン発生を抑える(秋耕)中干しに取り組む場合は長期中干し(普及センターから確認した地域の慣行日数は6月25日から6月1日頃の3～5日、これに対して7日間以上延長が必要なので最低でも10日必要だが、5日以上の長期中干しは品質に問題が生じるのであまり現実的ではない)をする必要がある	作業日誌、長期中干し・秋耕の写真
⑰ほ場への炭素貯留	バイオ炭(燃焼しない水準に管理された酸素濃度の下、350℃超の温度でバイオマス加熱して作られる固形物)の施用、不耕起又は省耕起栽培(圃場を耕さない)のいずれかを取り組むこと。	作業日誌、バイオ炭施用中の写真、省耕起の場合はスタブルカルチ(粗耕起作業機)等による作業の写真、施用したバイオ炭の購入証明

畑作物産地形成促進事業(麦)に係る提出書類一覧

取組内容		提出書類
(必須)赤カビ病の防除	ミラビスフロアブル、バラライカ、シルバキアフロアブル、チルト乳剤、ペフトップジン、トップジンM等による赤カビ病の対策が対象	生産履歴、防除薬剤購入証明
①融雪促進	融雪促進により春の活動をより早く再開させることができる10a当たり90～120kgの融雪剤を散布する取組が対象	作業日誌、融雪剤購入証明
②新たに導入した品種に応じた施肥(防除等を除く)	新たに導入した品種に応じた施肥や防除等の取組が対象 当年度産表で新たに品種転換するもので、転換した品種に応じて、都道府県等の栽培指針に沿った施肥、防除、収穫を行うものが対象。	作業日誌、生産履歴
③難防除雑草対策(薬剤のみによる防除を除く)	化学的防除としてはガレース乳剤、ムギレンジャー乳剤、ガルシアフロアブル、MCPソーダ塩、ハーモニーDF等による難防除雑草の対策が対象。 令和7年度より「薬剤以外により(または薬剤と組み合わせた)総合的防除により防除することが要件とされた。当地域では上記の薬剤と合わせて、「草刈り機による除草を実施する」、「早めに手取り除草を実施する」といった物理的防除に取り組んだものを総合的防除をしたものとし取組対象とする。	作業日誌、生産履歴、物理的防除作業中の写真・刈った草の写真 防除薬剤購入証明
④生育予測システムを活用した開花期・収穫期予測	生育予測システムを使用し、開花期・収穫期予測を行う取組 8年度の取組ではxarvio(ザルビオ)フィールドマネージャーや営農ソフトを活用したものを対象とします。	作業日誌、システムの導入が確認できる書類(契約書か利用明細)
⑤効率的・効果的な施肥	取組において、基肥や追肥を減らすことが求められるが、比較元とする数値や削減率に明確な基準がないため、当地域ではシステムにより地力マップを作成し、それに基づいた施肥を実施することを取組対象とする(これができるならば麦の(4)生育予測システム活用もとることができる)。	作業日誌(活用システム・アプリの名称等を記載) 作成した地力マップ・施肥マップ等
⑥新たに実施する農業機械の共同利用	共同利用する農業機械の考え方については【米】の(14)を参照 令和7年度より「当年度に新たに」取り組むことが要件とされたため、過年度にこの取組を選択している方は基本的に選択不可となる。過年度と異なる農業機械について、当年度に新たに共同利用する場合は対象となるが、過年度と異なる者と同一農業機械を共同利用等「新たに実施する」と判断できないような取組は対象とはならない。	共同利用機械の利用日報(最低限記入する事項は「使った機械の名称」と「いつ」、「誰が」、「何の作業をしたか」。組織で使っている場合は組織名も記載する)
⑦新たに実施するスマート農業機器の活用	ドローン、収穫コンバイン等の活用(ロボット・AI・IoTなどの技術) ドローンによる生育診断や農薬散布を委託する場合も対象とする 無人ヘリによる農薬散布は対象外 令和7年度より「当年度に新たに」取り組むことが要件とされたため、過年度にこの取組を選択している方は基本的に選択不可となる。過年度と異なるスマート農業機器等や、機能向上が図られるように新調したスマート農業機器等を活用する場合は対象となるが、「新たに実施する」と判断できないような単なる部品の更新やバージョンの更新等が行われたスマート農業機器等の活用は対象にはならない。「新たに」の確認については本人へのヒアリングと過年の取組実績から判定する。前年手上げ者のリスト作成済。	作業日誌、対象機械の購入記録または減価償却など所有が証明できるもの(委託の場合は作業委託が確認できる書類(委託内容の掲載された料金明細等))
⑧土層改良 ※畑作物本化作化促進メニュー	耕土の確保や土層の機能改善のための客土(よそ客から土を運び入れる)又は除礫(ロックピッカー、バックホーなどで石礫の除去を行う)の実施 除礫については農業機械を使用することが条件(人力除去は対象外)	作業日誌、土層改良作業の写真
⑨畦畔除去 ※畑作物本化作化促進メニュー	効率的な営農のための畦畔除去が対象。 交付対象水田に該当する範囲において、一時的に畦畔を除去する取組が対象。当年除去するものが対象となるので、もう畦畔がない場合は対象としない。	作業日誌、畦畔除去前・撤去作業中・撤去後の写真
⑩均平作業(傾斜均平) ※畑作物本化作化促進メニュー	レーザーレベラーやGPSレベラーを用いた均平作業が対象	作業日誌、均平作業の写真
⑪排水対策 ※畑作物本化作化促進メニュー	心土破碎、弾丸暗渠(通水孔を地下に作る)、有材補助暗渠(地下に吸水管設置)、無材穿孔暗渠、深耕、額縁明渠のうちのいずれかの排水対策に取組むものが対象。心土破碎の取組が主流。	作業日誌、心土破碎等作業の写真
⑫ほ場由来の温室効果ガスの削減	局所施肥…作物が作付けされる位置に施肥。作物の根が分布する位置にあらかじめ肥料を施用し、効率よく肥料成分を吸収させる施肥法。 分施(ぶんし)…窒素をいくつかの時期に分けて施用すること。施肥効率(施肥した窒素のうち作物に吸収される割合)が高まり、コストの削減に繋がる。 たまに基肥と追肥で取組を主張される方がいるが、本取組は基肥を分けて施用するものをいう。 緩効性肥料の施用…緩効性肥料はゆっくりと土に溶けて効くので、作物が肥料をほしい時期に必要なだけ与えることができる。肥料の効いている期間が長いので施肥回数を少なくできる。作物に利用される肥料成分の割合が高いため、施用量を少なくしても同等の収量を維持でき、減肥に繋がる。名寄の麦・大豆に使われる肥料だとDdがつくものが対象。	作業日誌、当該肥料の購入証明書類
⑬ほ場への炭素貯留	バイオ炭(燃焼しない水準に管理された酸素濃度の下、350℃超の温度でバイオマス加熱して作られる固形物)の施用、不耕起又は省耕起栽培(圃場を耕さない)のいずれかを取り組むこと。	作業日誌、バイオ炭施用中の写真、省耕起の場合はスタブルカルチ(粗耕起作業機)等による作業の写真、施用したバイオ炭の購入証明

畑作物産地形成促進事業(大豆)に係る提出書類一覧

取組内容		提出書類
①大豆300A技術	水田作の大豆の温害対策で水田での排水対策を徹底するため、土壌に適した耕起・播種技術。排水ができないと発芽不良や播種が遅れるなどの理由から単収が低下する原因ともなる。 研究機関が開発した大豆300A技術やそれに類する畝立て播種や狭畦密植栽培の向上に繋がる播種技術に取り組むものが対象。	作業日誌、実施する技術の内容が確認できる書類
②難防除雑草対策(薬剤のみによる防除を除く)	化学的防除としてはフルミオWDG、パワーカイザー液剤、フィールドスターP乳剤等による難防除雑草の対策が対象。令和7年度より「薬剤以外により(または薬剤と組み合わせた)総合的防除により防除すること」が要件とされた。当地域では上記の薬剤と合わせて、「カルチがけ」、「草刈り機による除草を実施する」、「早めに取り除草を実施する」といった物理的防除に取り組んだものを総合的防除をしたものとし取組対象とする。	作業日誌、生産履歴、物理的防除作業中(カルチがけ等)の写真 防除薬剤購入証明
③土壌診断等を踏まえた土づくり(化学肥料のみの施肥を除く)	基本的な考え方は[米]の(8)と同じだが、令和7年度から施肥は取組対象から除外されたため、有機質資材や土壌改良資材の施用、又は緑肥作物の作付といった土づくりの取組が実施されなければ選択不可。	作業日誌、参考とした診断書(令和6年1月以降に受診しているもの)、施用した肥料・資材の購入証明
④新品種の導入	単収の高位安定化等に資する新品種(平成20年度以降に育成された単収の高位安定化に資する品種)を新たに作付けすること	生産履歴(作付した品種が確認できるもの)
⑤効率的な施肥	ピンポイント施肥…AIなどで分析した必要個所に施肥。(一斉追肥と比較し施肥量の削減をすること)振興センターの六郎田係長に確認したところ、名寄ではドローン等を活用して作成した地力マップに基づき可変施肥を行う方式をしているものが想定されるところ。 麦と異なり、追肥重点施肥は対象とならない。追肥を減らすことが求められるが、比較元とする数値や削減率に明確な基準がないため、当地域ではシステムにより地力マップを作成し、それに基づいた施肥を実施することを取組対象とする。	作業日誌(活用システム・アプリの名称等を記載) 作成した地力マップ・施肥マップ等
⑥均平作業(傾斜均平) ※畑作物本作業促進メニュー	【麦】の(10)を参照	作業日誌、均平作業の写真
⑦摘心栽培	当年要望なしのため略	-
⑧畝間かん水	当年要望なしのため略	-
⑨化学肥料の使用量削減	堆肥利用等により、化学肥料の使用量を地域の慣行レベルと比べて30%以上削減すること。大豆の現行の地域慣行レベル(化学肥料の窒素成分量)は4(kg/10a)なので、1.2(kg/10a)の削減が必要。	生産履歴
⑩化学農薬の使用量削減	総合的な防除体系の確立等により、化学農薬の使用量を地域の慣行レベルと比べて60%以上削減すること。大豆の現行の地域慣行レベル(化学合成農薬(節減対象農薬)の成分使用回数)は13回なので、7回の削減が必要。	作業日誌(化学農薬の使用量【回数】を記入)
⑪排水対策(心土破碎、額縁明渠を除く) ※畑作物本作業促進メニュー	彈丸暗渠(通水孔を地下に作る)、有材補助暗渠(地下に吸水管設置)、無材穿孔暗渠、深耕のうちのいずれかの排水対策に取り組むものが対象。令和7年度より心土破碎と額縁明渠が除外された。麦以外の作物においては畑作物本作業促進メニューの「排水対策」として心土破碎または額縁明渠を選択することが可能だが、その場合はこれ以外の取組を3つ以上選択する必要がある。	作業日誌、彈丸暗渠等作業の写真(彈丸暗渠の場合は機械の彈丸型器具部分の写真)
⑫新たに実施する農業機械の共同利用	【麦】の(6)を参照	共同利用機械の利用日報(最低限記入する事項は「使った機械の名称」と「いつ」、「誰が」、「何の作業をしたか」。組織で使っている場合は組織名も記載する)
⑬新たに実施するスマート農業機器の活用	【麦】の(7)を参照	作業日誌、対象機械の購入記録または減価償却など所有が証明できるもの(委託の場合は作業委託が確認できる書類【委託内容の掲載された料金明細等】)
⑭土層改良 ※畑作物本作業促進メニュー	【麦】の(8)を参照	作業日誌、土層改良作業の写真
⑮畦畔除去 ※畑作物本作業促進メニュー	【麦】の(9)を参照	作業日誌、畦畔撤去前・撤去作業中・撤去後の写真
⑯ほ場由来の温室効果ガスの削減	局所施肥…作物が作付けされる位置に施肥。作物の根が分布する位置にあらかじめ肥料を施用し、効率よく肥料成分を吸収させる施肥法。 分施(ぶんし)…窒素をいくつかの時期に分けて施用すること。施肥効率(施肥した窒素のうち作物に吸収される割合)が高まり、コストの削減に繋がる。 たまたに基肥と追肥で取組を主張される方がいるが、本取組は基肥を分けて施用するものをいう。 緩効性肥料の施用…緩効性肥料はゆっくりと土に溶けて効くので、作物が肥料をほしい時期に必要なだけ与えることができる。肥料の効いている期間が長いので施肥回数を少なくできる。作物に利用される肥料成分の割合が高いため、施用量を少なくしても同等の収量を維持でき、減肥に繋がる。名寄の麦・大豆に使われる肥料だとDdがつくものが対象。	作業日誌、当該肥料の購入証明書類
⑰ほ場への炭素貯留	【麦】の(13)を参照	作業日誌、バイオ炭施用中の写真、省耕起の場合はスタブルカルチ(粗耕起作業機)等による作業の写真、施用したバイオ炭の購入証明
(本作業)心土破碎、額縁明渠 ※畑作物本作業促進メニュー(3つの取組の対象外)	この取組を選択した場合は、この他に3つ上記取組メニューからの選択が必要です。 4つ取組選択が必要。	作業日誌、心土破碎等作業の写真

畑作物産地形成促進事業(高収益作物)に係る提出書類一覧

取組内容		提出書類
①生物農薬の導入	施設栽培で、有害生物の防除に利用される天敵昆虫等の生物的防除資材を導入する取組が対象となる。	作業日誌、導入した資材が天敵昆虫等であることを証明するカタログ等、導入した資材の購入証明
②農薬によらない病害虫対策	フェロモントラップ等の適切な設置、病害虫の発生源となる雑草の防除(圃場まわりの薬剤によらない雑草防除)、病斑部の除去(病気になっている葉っぱ等を取る)等の耕種的防除のうち、いずれかに取組むこと。	作業日誌、生産履歴 トラップ等で取組む場合:設置した資材の購入証明、設置されている資材の写真 雑草防除で取組む場合:雑草防除作業中の写真 耕種的防除で取組む場合:処理前後の圃場の写真
③農薬によらない土壌消毒(太陽熱土壌消毒を除く)	例年要望なし	-
④農薬のドリフト対策	ドリフト低減ノズルの利用、ネット・被覆資材の利用、飛散しにくい農薬の選択等「農業飛散対策技術マニュアル(消費・安全局植物防疫課)」に記載の取組を行う。	作業日誌、ドリフト低減ノズルを使用した防除作業の写真と使用したノズルの写真、遮蔽物等を利用し防除作業をしている写真
⑤化学肥料の使用量削減	堆肥利用等により、化学肥料の使用量を地域の慣行レベルと比べて30%以上削減すること。現行の地域慣行レベル(化学肥料の窒素成分量)と必要削減量は次の通り。 作物 地域の慣行レベル 必要削減量 かぼちゃ(露地) 13(kg/10a) 3.9(kg/10a) 馬鈴薯(露地) 11(kg/10a) 3.3(kg/10a) スイートコーン(露地) 20(kg/10a) 6(kg/10a) スイートコーン(ハウス) 22(kg/10a) 6.6(kg/10a) カノソウについては地域の慣行レベルの定めがなく基準が定められないため選択不可	生産履歴
⑥化学農薬の使用量削減	総合的な防除体系の確立等により、化学農薬の使用量を地域の慣行レベルと比べて50%以上削減すること。実際の作業回数を下記の通りにできればOK。 作物 地域の慣行レベル 実際の作業回数 かぼちゃ(露地) 8回 4回 かぼちゃ(露地・長期どり) 12回 6回 馬鈴薯(ベタがけ・7月どり) 8回 4回 馬鈴薯(露地・普通栽培) 21回 11回 スイートコーン(半促成・トンネル・露地7月どり) 8回 4回 スイートコーン(露地8、9月どり) 12回 6回 カノソウについては地域の慣行レベルの定めがなく基準が定められないため選択不可	作業日誌(化学農薬の使用量[回数]を記入)
⑦新品種の導入	当年要望なしのため略	生産履歴
⑧排水対策(心土破碎、額縁明渠を除く) ※畑作物本化作化促進メニュー	弾丸暗渠(通水孔を地下に作る)、有材補助暗渠(地下に吸水管設置)、無材穿孔暗渠、深耕のうちのいずれかの排水対策に取組むものが対象。令和7年度より心土破碎と額縁明渠が除外された。麦以外の作物においては畑作物本化作化促進メニューの「排水対策」として心土破碎または額縁明渠を選択することが可能だが、その場合はこれ除いた取組を3つ以上選択する必要がある。	作業日誌、弾丸暗渠等作業の写真(弾丸暗渠の場合は機械の弾丸型器具部分の写真)
⑨新たに実施する農業機械の共同利用	共同利用する農業機械の考え方については【米】の(14)を参照 令和7年度より「当年度に新たに取組むことが要件とされたため、過年度にこの取組を選択している方は基本的に選択不可となる。過年度と異なる農業機械について、当年度に新たに共同利用する場合は対象となるが、過年度と異なる者と同一農業機械を共同利用等「新たに実施する」と判断できないような取組は対象とはならない。	共同利用機械の利用日報(最低限記入する事項は「使った機械の名称」と「いつ」、「誰が」、「何の作業をしたか」。組織で使っている場合は組織名も記載する)
⑩新たに実施するスマート農業機器の活用	ドローン、収穫コンバイン等の活用(ロボット・AI・IoTなどの技術) ドローンによる生育診断や農薬散布を委託する場合も対象とする 無人ヘリによる農薬散布は対象外 令和7年度より「当年度に新たに取組むことが要件とされたため、過年度にこの取組を選択している方は基本的に選択不可となる。過年度と異なるスマート農業機器等や、機能向上が図られるように新調したスマート農業機器等を活用する場合は対象となるが、「新たに実施する」と判断できないような単なる部品の更新やバージョンの更新等が行われたスマート農業機器等の活用は対象にはならない。「新たに」の確認については本人へのヒアリングと過年の取組実績から判定する。前年手上げ者のリスト作成済。	作業日誌、対象機械の購入記録または減価償却など所有が証明できるもの(委託の場合は作業委託が確認できる書類【委託内容の掲載された料金明細等】)
⑪土層改良 ※畑作物本化作化促進メニュー	耕土の確保や土層の機能改善のための客土(よそ客から土を選び入れる)又は除稈(ロックピッカー、バックホーなどで石稈の除去を行う)の実施 除稈については農業機械を使用することが条件(人力除去は対象外)	作業日誌、土層改良作業の写真
⑫畦畔除去 ※畑作物本化作化促進メニュー	効率的な営農のための畦畔除去が対象。 交付対象水田に該当する範囲において、一時的に畦畔を除去する取組が対象。当年除去するものが対象となるので、もう畦畔がない場合は対象としない。 一時的な除去が認められているもの、水活の交付対象水田の要件となっている畦畔に手をつけられないほうがよいと思われるため、極力選択をさける	作業日誌、畦畔除去前・除去作業中・除去後の写真
⑬均平作業(傾斜均平) ※畑作物本化作化促進メニュー	レーザーレベラーやGPSレベラーを用いた均平作業が対象	作業日誌、均平作業の写真
⑭ほ場由来の温室効果ガスの削減	局所施肥…作物が作付けされる位置に施肥。作物の根が分布する位置にあらかじめ肥料を施用し、効率よく肥料成分を吸収させる施肥法。 分施(ぶんし)…窒素をいくつかの時期に分けて施用すること。施肥効率(施肥した窒素のうち作物に吸収される割合)が高まり、コストの削減に繋がる。 たまに基肥と追肥で取組を主張される方がいるが、本取組は基肥を分けて施用するものをいう。 緩効性肥料の施用…緩効性肥料はゆっくりと土に溶けて効くので、作物が肥料をほしい時期に必要なだけ与えることができる。肥料の効いている期間が長いので施肥回数を少なくできる。作物に利用される肥料成分の割合が高いため、施用量を少なくしても同等の収量を維持でき、減肥に繋がる。名寄の麦・大豆に使われる肥料だとこれが対象	作業日誌、当該肥料の購入証明書類
⑮ほ場への炭素貯留	バイオ炭(燃焼しない水準に管理された酸濃度の下、350℃超の温度でバイオマスを加熱して作られる固形物)の施用、不耕起又は省耕起栽培(圃場を耕さない)のいずれかを取り組むこと。	作業日誌、バイオ炭施用中の写真、省耕起の場合はスタプルカルチ(組耕起作業機)等による作業の写真、施用したバイオ炭の購入証明
(本化作)心土破碎、額縁明渠 ※畑作物本化作化促進メニュー(3つの取組の対象外)	この取組を選択した場合は、この他に3つ上記取組メニューからの選択が必要です。 4つ取組選択が必要。	作業日誌、心土破碎等作業の写真

畑作物産地形成促進事業(子実用とうもろこし)に係る提出書類一覧

取組内容		提出書類
①排水対策(心土破砕、額縁明渠を無く。耕うん同時畝立て播種を含む) ※畑作物本化作促進メニュー	【大豆】の(11)を参照。ただし、子実用とうもろこしにおいては耕うん同時畝立て播種も対象となる	作業日誌、弾丸暗渠等作業の写真(弾丸暗渠の場合は機械の弾丸型器具部分の写真)
②均平作業(傾斜均平) ※畑作物本化作促進メニュー	レーザーレベラーやGPSレベラーを用いた均平作業が対象	作業日誌、均平作業の写真
③堆肥の利用	畜産農家から供給される家畜排泄物の堆肥を利用することを対象とする。JA(らくみ)等から購入するものが対象となるのか?また施肥量に規定はあるか?の2点について国へ照会中→振興局へレベルの回答だが、畜産農家から直接供給でなくとも家畜排せつ由来の堆肥であれば可。施肥量に規定はないが、北海道施肥ガイド等を参考に、適切量を施用すること。	作業日誌、堆肥の供給協定書や購入証明
④農薬によらない病害虫対策		-
⑤生物農薬の活用	有害生物の防除に生物農薬(BT剤)の活用	-
⑥難防除雑草対策(薬剤のみによる防除を除く)	化学的防除としてはゲザプリムフロアブル、ブルーシアフロアブル等による難防除雑草の対策が対象。令和7年度より「薬剤以外により(または薬剤と組み合わせ)総合的防除により防除すること」が要件とされた。当地域では上記の薬剤と合わせて、「草刈り機による除草を実施する」、「早めに取り除草を実施する」といった物理的防除に取り組んだものを総合的防除をしたものとし取組対象とする。	作業日誌、生産履歴、物理的防除作業中の写真、防除薬剤購入証明
⑦化学肥料の使用量削減		-
⑧化学農薬の使用量削減		-
⑨カビ毒の低減	カビ毒の原因となる病害虫の防除とカビ毒の検査の実施	-
⑩新たに実施する農業機械の共同利用	共同利用する農業機械の考え方については【米】の(14)を参照 令和7年度より「当年度に新たに」取り組むことが要件とされたため、過年度にこの取組を選択している方は基本的に選択不可となる。過年度と異なる農業機械について、当年度に新たに共同利用する場合は対象となるが、過年度と異なる者同一農業機械を共同利用等「新たに実施する」と判断できないような取組は対象とはならない。	共同利用機械の利用日報(最低限記入する事項は「使った機械の名称」と「いつ」、「誰が」、「何の作業をしたか」。組織で使っている場合は組織名も記載する)
⑩新たに実施するスマート農業機器の活用	ドローン、収穫コンバイン等の活用(ロボット・AI・IoTなどの技術) ドローンによる生育診断や農薬散布を委託する場合も対象とする 無人ヘリによる農薬散布は対象外 令和7年度より「当年度に新たに」取り組むことが要件とされたため、過年度にこの取組を選択している方は基本的に選択不可となる。過年度と異なるスマート農業機器等や、機能向上が図られるように新調したスマート農業機器等を活用する場合は対象となるが、「新たに実施する」と判断できないような単なる部品の更新やバージョンの更新等が行われたスマート農業機器等の活用は対象にはならない。「新たに」の確認については本人へのヒアリングと過年の取組実績から判定する。前年手上げ者のリスト作成済。	作業日誌、対象機械の購入記録または減価償却など所有が証明できるもの(委託の場合は作業委託が確認できる書類(委託内容の掲載された料金明細等))
⑩土層改良 ※畑作物本化作促進メニュー	耕土の確保や土層の機能改善のための客土(よそ客から土を運び入れる)又は除稈(ロックピッカー、バックホーなどで石稈の除去を行う)の実施 除稈については農業機械を使用することが条件(人力除去は対象外)	作業日誌、土層改良作業の写真
⑩畦畔除去 ※畑作物本化作促進メニュー	効率的な営農のための畦畔除去が対象。 交付対象水田に該当する範囲において、一時的に畦畔を除去する取組が対象。当年除去するものが対象となるので、もう畦畔がない場合は対象としない。 一時的な除去が認められているものの、水活の交付対象水田の要件となっている畦畔に手をつけられないほうがよいと思われるため、極力選択をさける	作業日誌、畦畔撤去前・撤去作業中・撤去後の写真
⑩ほ場由来の温室効果ガスの削減	局所施肥…作物が作付けされる位置に施肥。作物の根が分布する位置にあらかじめ肥料を施用し、効率よく肥料成分を吸収させる施肥法。 分施(ぶんし)…窒素をいくつかの時期に分けて施用すること。施肥効率(施肥した窒素のうち作物に吸収される割合)が高まり、コストの削減に繋がる。 たまたま基肥と追肥で取組を主張される方がいるが、本取組は基肥を分けて施用するものをいう。 緩効性肥料の施用…緩効性肥料はゆっくりと土に溶けて効くので、作物が肥料をほしい時期に必要なだけ与えることができる。肥料の効いている期間が長いので施肥回数を少なくできる。作物に利用される肥料成分の割合が高いため、施用量を少なくしても同等の収量を維持でき、減肥に繋がる。名寄の麦・大豆に使われる肥料だとdがつくものが対象。	作業日誌、当該肥料の購入証明書類
⑩ほ場への炭素貯留	バイオ炭(燃焼しない水準に管理された酸濃度の下、350℃超の温度でバイオマス加熱して作られる固形物)の施用、不耕起又は省耕起栽培(圃場を耕さない)のいずれかを取り組むこと。	作業日誌、バイオ炭施用中の写真、省耕起の場合はスタプルカルチ(粗耕起作業機)等による作業の写真、施用したバイオ炭の購入証明
⑩新品種の導入	要望なし	-
(本化作)心土破砕、額縁明渠 ※畑作物本化作促進メニュー(3つの取組の対象外)	この取組を選択した場合は、この他に3つ上記取組メニューからの選択が必要です。 4つ取組選択が必要。	作業日誌、心土破砕等作業の写真